

特集

2

結びつけたキャリア教育

あまくまり力ちゃん学校へ行こうプロジェクト

経済産業省では、文部科学省と連携の下、地元産業界の技術者やO.B.を活用して、子どもたちが学ぶ理科と実社会の実践を支援する「理科実験教室プロジェクト」を推進しています。具体的には、地域の教育界・産業界とネットワークを有する企業・N.P.O.等を地域コーディネーターとして支援し、理科実験に協力できる地元企業や技術者を発掘するとともに、地元企業の技術を使って理科の単元を分かりやすくする理科実験プログラムを作成し、地域の教育委員会との連携の下、実社会と結びつけた理科授業を実施するものです。同プロジェクトは昨年9月から全国で15の地域をモデル地域として、小学校5・6年生の理科授業を支援しています。

沖縄においては、事業主体となつた財団法人沖縄県公衆衛生協会が、「あまくまり力ちゃん学校へ行こうプロジェクト」社会に活ける技術と学校の出会いを創る」を事業

の特質を活かしたユニークなプログラム」の開発、実施に取り組んできました。「あまくま」とはご存知のとおり、沖縄の方言で「あちらこちら」を意味し、また「リカ」は沖縄方言の「リツカ=行こう」と「理科」を表しています。理科(りか)のエキスパートとなる地域の(あちらこちら)の企業や技術者等を学校の理科授業の講師として迎えることで、地域の子供たちを育てる社会を目指したいという想いが込められています。

授業は、第6学年の「大地のつくりと変化」「生き物と自然環境」の2単元を焦点に定め、県内企業の代表者や技術者を講師として招へいし、「キャラに驚こう!」「琉球石灰岩を知ろう!」「サンゴの海のかかわりに気づこう」「サンゴの海と私たち」「気づけばまわりに電磁石」「どうすればべき?赤土問題」のタイトルで授業を実施してきました。例えば、授業タイトル「サンゴの海の「かかわり」に気

のタイトルとして、「沖縄の特質を活かしたユニークなプログラム」の開発、実施に取り組んできました。「あまくま」とはご存知のとおり、沖縄の方言で「あちらこちら」を意味し、また「リカ」は沖縄方言の「リツカ=行こう」と「理科」を表しています。理科(りか)のエキスパートとなる地域の(あちらこちら)の企業や技術者等を学校の理科授業の講師として迎えることで、地域の子供たちを育てる社会を目指したいという想いが込められています。

★専門用語の説明に難しい面がありました。例えば粒子は「小さな粒」というように表現を変えなければならない。実際に自分が行った授業を振り返りながら、表現方法を改善していました。

それぞれの
声

次の実験なにやるの?

- ★学んだことを、お父さんやお母さんに教えてあげたい。
- ★琉球石灰岩が私達の身边にあるなんて、ビックリしました。
- ★電化製品についているモーターを見てびっくりしました。もっと他の電化製品の中も見てみたい。

★便利な生活になつていてボタン一つ押せばお湯は出ますし、ケーラーもつきます。こうした便利な生活が子どもたちの考える力をなくしているのではないかと考えさせられました。

★子どもたちに考えさせる力を持たせるために、私たち教師が企業の方と連携して、考える力を身に付けさせるための授業を行っていく必要があるのではないかと思いました。

外部講師 =
企業の



子どもたちの

声



教師の

声



外部講師 =
企業の

声

子どもたちが学ぶ理科と実社会を

6年生対象

『サンゴの海の かかわりに気づこう』



触ってみよう!
考えてみよう。



この水槽には、
サンゴ礁の生態
系がつまっています。



サンゴ礁の生態
系を観察してみ
よう。



サンゴ礁の生き
物と環境の関係
をマップにして
みましょう。

「この『』では、サンゴ礁の生物やサンゴ礁生態系を示した水槽を観察することから、生き物と環境とのつながりや食物連鎖、共生などの生き物同士のつながりを具体的に捉え、サンゴ礁生態系でのサンゴの重要性を学ぶことをねらいとして授業を開きました。サンゴ礁の自然観察は潮回りや天候、移動手段、安全確保などの課題があるため、学校授業に取り入れにくい条件がありますが、サンゴ養殖を手がける株式会社Aqua Culture Okinawa（アクアカルチャーオ

サンゴ礁の生き物に触れる
ナマコやヒトデに直接触れ
観察する。
サンゴ礁の生き物を知る
サンゴ礁水槽を観察し、生物を確認する。
サンゴ礁の関わりを知る
サンゴ礁の生き物同士や生

き物と環境のつながりを考え、
キナワ）のノウハウを活かし、
サンゴ礁生態系を示した水槽を教室に持ち込み、子供たちが本物に関心を向けるきっかけを作りました。

授業の展開は、次の内容で段階的に進められました。

授業を受けた生徒からは、「沖縄のサンゴが減っていることを知り、私たちの近くの海のサンゴはどうなっているのか知りたくなった。」「サンゴがなければ、小さな魚、サンゴにいる生き物がいなくなってしまう、いろんな生き物がいなくなることがどんなに大変なことな

のか分かった。」等関心の高まりが感じられました。

当該事業では、沖縄県内4市町村11小学校の6学年延べ46クラスにおいて実施し、理科授業における外部人材を活用した授業の実例を創り、沖縄の特色（自然特性としては亞熱帯海洋性・島嶼性等）を活かした授業プログラムを開発しました。また、授業を受けた児童の反応は極めて高く、理科授業と社会とをつなげるという事業目的に即した成果を上げることができました。